

年度:2019年 LOM番号:531

【褒賞申請書】

事業名称	第12回全日本残月花火選手権大会
カテゴリー	最優秀 LOM 長期型地域社会開発プログラム部門

申請LOM	一般社団法人大曲青年会議所
LOMの人数	40名
理事長名	小松 利也
担当者名	藤原 健太
担当者携帯番号	090-4048-5369
事務局住所	秋田県大仙市大曲通町5-2 3F
事務局TEL	0187-63-0883

本事業の参加者	会員数	23名
	関係者数	15名
	一般参加者数	103名
事業実施に至る背景 400文字程度	<p>大曲では祝事の際に残月花火と呼ばれる落下傘花火を打ち上げ、地域を上げてお祝いする文化が根付いておりましたが、幹線道路の整備などの生活環境の変化により安全面への配慮から残月花火を上げる機会がなくなり、子供達は素晴らしい文化があった事を知らない現状にありました。野球場などを借りて残月花火を打ち上げるなど細々と続けられていたこの伝統文化をもう一度子供たちをはじめとし、地域の方々にとっての特別な行事とするべく、12年前に当会議所の35周年記念事業として、かつてのように広大な田んぼの中を走り回れるように復活して以来、継続事業として毎年開催してきた全日本残月花火選手権大会は各種メディアやSNSを通じて少しずつ周知され、地域の子供たちにも残月花火が徐々に浸透した現在、我々が地域の魅力や伝統文化を引き続き子供たちに伝えていく必要があります。</p>	
事業目的	対内としては規模の大きい大会を運営するに辺り、委員会の隔てなく全会員が一丸となって取り組むことでメンバー同士の交流を活発にし、友情を	

<p>400文字程度</p>	<p>さらに深めること共に大仙郷に根付く伝統文化の魅力を知り今後の事業構成の糧とする事を目的とします。</p> <p>対外としては子供たちや大人が、自然豊かな大曲の田んぼで自然に触れ、他者と交流を深めるとともに、地域に根付いた伝統文化を体験していただくことで、大仙郷ならではの魅力を認識すること、また子供たちが将来職業選択の際などに県内にも魅力あふれる企業が多くあることを思いだし、地元企業へ目を向けるきっかけとなることを目的とします。</p>
<p>SDG'sの該当項目</p>	<p>3.すべての人に健康と福祉を</p> <p>4.質の高い教育をみんなに</p> <p>5. ジェンダーの平等を実現しよう</p> <p>5. 5 政治、経済、公共分野でのあらゆるレベルの意思決定において、完全かつ効率的な女性の参加および、平等なリーダーシップの機会を確保する</p> <p>8. 働きがいも経済成長</p> <p>8. 9 2030年までに、雇用の創出、地元の文化・産物の販促につながる持続可能な観光業を促進するための政策を立案し実施する。</p> <p>11. 住み続けられるまちづくりを</p> <p>11. a 各国・地球規模の開発計画の強化を通じて、経済、社会、環境面における都市部、都市周辺部、および農村部間の良好なつながりを支援する</p> <p>12. つくる責任 つかう責任</p> <p>12. 8 2030年までに、あらゆる場所の人々が持続可能な開発および自然と調和したライフスタイルに関する情報と意識を持つようにする</p> <p>12. b 持続可能な開発が雇用の創出、地元の文化・産品の販促につながる持続可能な観光業をもたらす影響のモニタリングツールを開発・導入</p> <p>17. パートナーシップで目標を達成しよう</p> <p>17. 17 さまざまなパートナーシップの経験や資源戦略を基にした、効果的な公的、民的、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する</p>
<p>事業概要</p> <p>400文字程度</p>	<p>12回目を迎える残月花火選手権大会では例年どおりの落下傘をとってくる速さを競う競技に加え、落下傘についている札を獲得すると企業からの協賛品と交換できる「クラシック残月」を行いました。「クラシック残月」部門は以前も開催しましたが今回は数多くの企業を知ってもらいたい気持ちから30社を超える企業から協賛品を募り景品と代えさせていただきました。</p> <p>さらに新たな試みとして花火クイズ大会を開催し、多くの参加者へ残月花火の歴史や文化を認識していただくと共に、残月花火の知識を新たに得るイベントを体験していただきました。正解発表を赤と青の色花火を打ち上げて</p>

	<p>知らせることなど他にない地域の特色を盛り込みました。</p> <p>飲食の出展ブースも地域に根差す企業を選定して出店していただき、県内外へと地域のグルメを発信する機会にもなりました。</p> <p>また大曲の花火の栈敷券などが当たる抽選会を閉会式の前に開催し、参加者が最後まで楽しめるように配慮しました。</p>
<p>開催期間・ タイムスケジュール</p>	<p>2018年11月3日(文化の日) 10:00~15:30</p> <p>7:00 集合 設営開始</p> <p>8:00 受付開始</p> <p>9:30 開会宣言 開始号砲</p> <p>9:31 理事長挨拶</p> <p>9:33 祝辞</p> <p>9:36 ルール説明 確認事項</p> <p>9:37 選手宣誓</p> <p>9:38 ラジオ体操</p> <p>9:50 昼花火鑑賞会</p> <p>10:00 幼児の部</p> <p>10:15 小学校低学年の部①</p> <p>10:30 小学校低学年の部②</p> <p>10:45 小学校中学年の部①</p> <p>11:00 小学校中学年の部②</p> <p>11:15 小学校高学年の部①</p> <p>11:30 中学生以上女子の部</p> <p>11:45 中学生以上男子の部</p> <p>12:00 昼食</p> <p>12:50 大人 男性の部</p> <p>13:05 大人 女性の部</p> <p>13:20 クラシック残月 小学生以下女子の部</p> <p>13:35 クラシック残月 小学生以下男子の部</p> <p>13:50 クラシック残月 中学生以上女子の部</p> <p>14:05 クラシック残月 中学生以上男子の部</p> <p>14:20 クラシック残月 大人の部</p> <p>14:35 理事長挨拶</p> <p>14:37 残月クイズ大会</p> <p>15:07 すごいのが当たる抽選会</p> <p>15:20 閉会宣言</p>

開催場所	大仙市神岡北檜岡地内の田んぼ	
事業区分	継続	
公益・共益区分	公益事業	
事業総予算・収支	予算計：¥1,002,274－ 支出計：¥1,002,274－	
協力団体	共催	一般社団法人横手青年会議所 一般社団法人湯沢青年会議所
	協賛	大仙市 大曲商工会議所
	後援	大仙市 大仙市教育委員会 仙北市教育委員会 美郷町教育委員会 NPO法人大曲花火倶楽部 AKT秋田テレビ FMはなび 湯沢市 横手市 湯沢市教育委員会 横手市教育委員会
	その他	花火製造：(株)響屋 大久保煙火製造所 (株)北日本花火興業 (株)小松煙火工業 (株)和火屋 出店協力：株式会社ヤマダフーズ 株式会社 IMI ポールミート 大曲旨麺同好会
事業対象者	全国公募による参加者300名(幼児80名、小学生130名、中学生以上90名)	
行動 (ACTION TAKEN) 400文字程度	<p>昨年度で12回を数える残月花火選手権大会では、リピーターも多い事業だからこそ常に新しい可能性を模索し毎年様々なアイデアを盛り込んできました。昨年度は原点回帰ともいうべき、昔ながらの仕組みである残月花火に景品の札を取り付け、獲得した参加者にふるまう「クラシック残月」という部門を開催しました。以前も開催されましたが今回は開催にあたりたくさんの地元企業から協賛品を出していただくという思いから、地域の企業様の元へと足を運び協賛品の提供を青年会議所全メンバーでお願いに伺いました。また大曲の花火の魅力を伝え、さらにファンを増やすために花火に関するクイズ大会を田んぼの中で行いました。また最後まで楽しめるように大曲の花火の栈敷券が当たる大抽選会を閉会式と合わせて行いました。事業後は会場となった田んぼの清掃を行い、田主や協賛を頂いた企業様へ感謝状を郵送いたしました。</p>	
結果 (RESULT)	<p>当日は、晴天に恵まれ参加していただいた多くの方に秋田県の代名詞である田んぼの中を残月花火を追いかけ思いっきり走っていただくことが出来、通常の花火大会では得難い地域特有の魅力を体で感じていただきました。花火クイズや大抽選会も盛況裡に終わり、大曲の花火を広くアピール</p>	

	<p>することができました。また「クラシック残月」部門では多くの企業様から協賛品を頂戴することができ、結果、参加した多くの方々へ地域に根付いた企業を伝えることができ、花火だけではない地域の魅力を伝えることが出来ました。</p> <p>また協賛品集めや人集め、各設えを昨年のスローガン通り奮励努力した会員は大きな達成感を得たとともに互いの友情をさらに深めることとなりました。</p>
<p>地域社会への影響</p> <p>400文字程度</p>	<p>一度は生活環境の変化により行われなくなった残月花火を行い続けていることにより、地域の若者たちへ地元で昔より根付いていた伝統文化を知っていただけたと事と思います。また協賛品を提供していただいた企業様のもとへ、引換券を持って実際に新規のお客様より来店していただいたとの声を多く聞くことができました。多くの参加者へ地元企業を知って頂く場になったと思います。特に子供たちに地元の企業を広く知っていただくことにより将来地元で働きたい、この会社で働いてみたいなどといった選択肢を増やす一助となることと思われます。</p> <p>今では毎月開催される大仙市の花火大会を記した大曲の花火暦にも、唯一の落下傘花火の大会として数えられていることから地域にとってもなくてはならないものとなっています。</p>
<p>LOMへの影響</p> <p>400文字程度</p>	<p>継続事業であるがゆえに飽きの来ないような創意工夫に頭を悩ませ、協賛品集めから各種設えにあたり、多くの会員が熱意と誠意をもって奮励努力した結果、メンバー間の繋がりがより一層強固なものになり、多くの企業や団体と交流を持つことができ、参加した全会員が大きな達成感を得ることが出来ました。また企画、実施するに際してメンバー各々が地域の魅力を再認識し、この地域を引っ張って行く責任ある世代としての自覚を持ち、新たな気づきを得る学びの場となりました。</p>
<p>事業の長期的な影響</p> <p>400文字程度</p>	<p>参加された多くの子供たちが、地元で根付く企業を知って頂くことにより将来就職を考える時期になった時、県外へ職を探しに出ていくのではなく、残月花火で知った魅力的な多くの企業を思い出し、県内へと就職の目を向ける機会になりうると思われます。また企業側にとっても今後参加者が増え続け、協賛することで自社のアピールができる体制が整っていければ新規顧客の開拓にもつながり、地域の活性化につながっていくことと確信しています。また県内外の参加者が今後 SNS 等でさらに情報を発信していけば全世界に知れ渡る「大曲の花火」に負けずとも劣らない大会へと発展していくことも想像できます。</p>
<p>考察や推奨</p>	<p>今後多くの若者たちへ伝統的な残月花火を伝えていくには SNS の活用が不可欠だと考えます。インターネットの普及で個人の趣味や遊びに多様</p>

<p>400文字程度</p>	<p>性が進んでいる昨今、自分の興味のあるものにはしか目を向けない人は多いと思います。しかし群集心理ともいうべきかやはりいつの時代も大勢の集団が良しとしているものは良いという傾向はあります。現代ではその光景を『映える』、『バズった』、などの言葉で SNS の中で顕著に見て取れます。青年会議所としても積極的に SNS の運用に努め、ライブ配信を試してみるなど若者の目に留まりやすい環境で事業を開催していく必要があると考えます。</p>
<p>改善点</p>	<p>現在、稲刈り後の田んぼを主な会場として選定しているためどうしても開催時期が限られています。参加動員の点からみれば夏休みなど子供たちが集まりやすい日程で開催されるのが望ましいですが田んぼで行うことを考えると現実的ではありません。外で行うことが醍醐味の事業なので田んぼ以外で開催できる候補地を探していくことも必要だと思われます。</p>
<p>JCI活動計画の推進 JCI VISION活動計画の推進 JCI MISSION活動計画の推進</p>	<p>JCI VISION活動計画の推進 残月花火選手権大会という活動を通じて得られる気づきや学びを、参加者や新聞記事、SNS等を見た人々に広く周知することが出来ました。 JCI MISSION活動計画の推進 12回続く継続事業だからこそ求められる変化に立ち向かい、毎年趣を変え新たな可能性を模索し続けていく姿勢が、会員を能動的にならしめ積極的な変革を創造するきっかけとなっています。</p>
<p>添付資料 PDF資料2MB、5ページ以内</p>	<p>事業風景、新聞掲載記事、チラシ、プログラム</p>

第12回全日本残月花火選手権大会

一般社団法人大曲青年会議所は2018年11月3日土曜日に「第12回全日本残月花火選手権」大仙市神岡北檜岡地内の田んぼにて行いました。詳細の内容につきましては、下記内容をご覧ください。

この第12回全日本残月選手権大会は子供達や大人が、自然豊かな大仙郷の田園で自然に触れ他者と交流を深めるとともに、地域に根付いた伝統文化を体験していただくことで、大仙郷の魅力を認識する事を目的として開催されました。参加した子どもたちは楽しんで地域の伝統文化に触れることが出来たという結果、目的を達成する事ができました。

第12回全日本残月選手権大会とは？

詳細な事業内容

期日：2018年11月3日

会場：大仙市神岡北檜岡地内の田んぼ

12回目を迎える残月花火選手権大会では例年どおりの落下傘をとってくる速さを競う競技に加え、落下傘についている札を獲得すると企業からの協賛品と交換できる「クラシック残月」を行います。さらに新たな試みとして花火クイズ大会を開催し、多くの参加者へ残月花火の歴史や文化を認識していただくと共に、残月花火の知識を新たに得るイベントを体験していただきます。



